

2023年6月8日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：2023年6月8日（木）18時から20時

場所：クリスタルアージュ 4階 401 研修室

出席者：上水流委員長、佐田尾委員（オンライン）、本多委員、木村委員、中間委員、永井委員、高下委員

事務局：佐々木課長、戸田係長、坂本

作成者：坂本

事務局

定刻の時間となりました。ただいまから、安芸高田市高校と地域の連携強化戦略会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。議事までの進行をさせていただきます。政策企画課の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに上水流委員長よりご挨拶をお願いします。

上水流委員長

そろそろ本当に形を決めて出さなきゃいけないということで、特に今年度前半で集中的に審議していくという形になっております。

皆様から積極的なご意見をお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

本日の会議時間でございます。2時間程度を予定しております。新年度になりまして初めての会議ということになります。

このたびの会議からは、吉田高校より木村校長先生、そして安芸高田市企画部より高下部長、二名の方に加わっていただいております。

それぞれから、1分程度で構いませんので自己紹介をお願いしたいと思います。

今回の会議から参加された委員の自己紹介

木村委員（広島県立吉田高等学校 校長）

吉田高校校長を4月から拝任しました木村剛毅です。今年度探求科83名、アグリビジネス科が14名、合計の97名となります。まだまだ十分な数と言えないということは、自覚しておるつもりです。皆様方のご協力いただいて学校の活性化をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

高下委員（安芸高田市企画部 部長）

安芸高田市の企画部長に、この4月からなりました高下です。昨年まで事務局で関わっておりました。引き続き、この会がしっかりと成果が出せるようにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局の自己紹介

また、事務局の方も人事異動により、体制が変わっております。自己紹介をさせていただきたいと思っております。私（佐々木課長）の方が、この4月1日から、政策企画課の方に異動になりました。高下の後任という形で、課長を務めさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度に引き続きましてお世話になります。戸田です。本年度もどうぞよろしくお願ひをいたします。

この4月から政策企画課に配属となりました坂本です。前任の旭に代わり担当しております。どうぞよろしくお願ひします。

議事

(1) 戦略会議の進め方について

- ①短期、中期的の区分の確認
- ②短期で取り組むことの意見交換
- ③高校生アンケートの実施

(2) その他

【事務局説明】資料2の説明

1 事業概要

2022年度に中学3年生の進路選択のアンケート、両高校の現状の把握及び生徒へのアンケートを実施し、取り組みの方向性を協議してきました。テーマとして短期的なものの中長期的なものに分けられるのではないかと議論を重ねてきました。今年度の取り組みとして、より明確にテーマを絞り、短期的なものとしては2024年度の入学者、両高校の定員の確保に向けた協議、中長期的なものとしては地域との連携や学びを通じて将来市に貢献しようとする人材を育成していくための協議をしていきたいと思ひます。この委員会の中で皆様それぞれの立ち位置、ご経験の中から短期的・中長期的な取り組みに対して提案や助言をしていただき、2024年度の入学者の確保や地域と連携した人材育成事業に繋げていきたいと思ひます

2 取組の内容

3月に開催しました委員会の中で、委員の皆様からいただきました内容をもとに作成しております。

◎短期的なもの

(1) オープンスクールの充実

実施主体は両高校になりますが、さらなる魅力が出されるようなものがあるとすればというような視点でご意見などがいただけたらと思ひております。

(2) 「変わる向原高校」

実施主体としては向原高校とさせてもらっています。前回の会議の中でも向原高校に行かないと学べない、向原高校だからこそこういうことができるというような特色をしっかりと打ち出していたらという意見がありました。他の高校との差異化を図りまして、7月までの間でオープンスクールにつなげて、中学生に伝えていけたらということで上げさせてもらっています。

(3) 情報発信

これまでもいろいろな媒体、HPや新聞等の媒体で、情報はたくさん出ておまして、本日の新聞でも出ておりましたが、これが果たして中学生や保護者に届いているのかというのがこれまでのテーマだったと思ひます。中学生や保護者が見る媒体で、PRをするということもこれからの議論のところになるかと思ひます。

(4) 中高連携として高校と中学校（市教委）で取組を具体化

両高校に合わせて市の教育委員会、中学校の先生方も関わってこられるかなと思ひております。両高校のオープンスクールにより多くの生徒の参加を促す取り組みを検討していけたらと思ひます。

両高校に行ったことがない中学校の先生が増えているというような意見もありました。先生にも多く参加していただく、生徒と一緒に来ていただくような機会を設けていくという意見もありました。中学校3年生が学校の見学の機会を複数回設けていくこと。両高校とも今年度は2回のオープ

ンスクールを計画されていますので、ひとまずは複数回計画されています。

中高一緒に学ぶ機会として学校行事や、高校生が中学生を指導または部活動を中高合同で行う機会が設ければという意見がありました。

(5) 市外からの生徒の確保

交通事情もありますので、かなり遠方からというのは難しいにしても市外の中学校からしっかり引っ張ってくるという取り組みも考えていかなければなりません。今年度の安芸高田市内の中学3年生が約200名、両高校の募集人数が200名であるということであれば、市外への進学を食い止めて、市外から受け入れ取組をアプローチも必要ではないかと思っております。

◎中長期的なもの

(1) 学力向上

現在新たな取り組みとして、両高校の全校生徒さんに向けてリクルート社のスタディサプリを導入するように予算計上をしています。オンラインの授業で学校の学習に合わせて、中学校や高校の学びなおしが生徒のペースで行うことができるというものです。サプリを活用していただくことによって吉田高校でいうと、国公立大学に入学する生徒が二桁いるのを継続させていただくことにも繋がり、それぞれ基礎学力をつけ生徒が目指すべき目標に届くような取り組みを応援できたらと思っております。

(2) 高校生自身が高校の魅力化を検討

両校長先生とお話をさせてもらっておりますが、やはり高校生自らが自分たちの高校のことをしっかり考えること。また、市からの高校応援プロジェクト補助金も、高校生の意見が反映できるように議論をさせてもらったと思っております。

(3) 学校が希望する地域連携の学びのサポート

両校長先生、高校生の皆さんが希望する地域連携というもの、それに向けた学びのサポートを具体化に向けて議論できたらと思っております。前回の会議の中で、地域の中の人材・場所・企業等は、高校の先生や学校の中だけでは情報がなかなか集めきれないということでそのリストを市が作成して高校に提供しようという話が出てきたと思います。その上で、学校側のニーズに答えられるようなサポート、地域の関わりを作るために議論できたらと思います。

3 スケジュール

◎短期的なもの

- (1) オープンスクールでは、なるべく多くの中学生に来てもらえるような仕組みや、中学生が知りたい内容、伝えていきたい内容というも含めて意見交換ができたらと思っております。
- (2) 変わる向原高校、(3) 情報発信ではテーマ設定になってくると思います。
- (4) 中高連携の取り組みに向けて、打ち合わせの場を設けていくような形を取っていくと思っております。
- (5) 市外からの生徒の確保では、市外の生徒に何とか情報を届けていきたいと思っております。

◎中長期的なもの

今年度協議する内容と、3年後の到達点等を挙げさせてもらっていますが、この内容の所は、また改めてご協議をお願いしながら、設定をしていくことになるかと思っております。

4 2023年度 戦略会議の開催計画

今年度も5回開催させていただきたいと事務局としては思っております。本日の会議をもって、7月8月と1ヵ月刻みで会議の予定を組ませてもらっています。この夏までの3回のところでオープンスクールに向けてのことや、生徒確保に向けた取り組み等具体的に協議をお願いしたいと思っております。今日の会議の中で次回の会議までに具体的になにをすべきかを決めまして、次回の会議で協議させていただければと思っております。

上水流委員長

まずは短期的に取り組むことへの意見交換ですが、この部分について皆様と議論をしていきたいと思っております。例えば(1) オープンスクールの充実で、オープンスクールを魅力的なものにと

書いてありますが、言葉で書くと簡単で具体的に何ができるのか、また以前から言われている(2) 変わる向原高校の中身をどうしていくか、情報発信もオープンスクールに向けてTwitterやInstagram等のSNSの活用は非常に重要だと思いますが、何の情報発信をするのかということ。

(4)は具体的に定まっていて教育委員会と高校との間できちんと連携が取れば形ができると思います。それに向けて課題等感じられることがあれば意見を出していただければと思います。(5)は市外から受け入れる取り組みが必要と書いてあって、その通りですが、どんな取り組みだったらいいかと思っています。スケジュールでは、2回目では中身が見えてこないと議論できませんので、皆さんからご意見を頂戴したいと思います。(4)については、具体的にやることは決まっていますので、永井委員から意見を聞かせてもらえればと思います。

永井委員

前回の会議を受けて、市内の中学校長へ情報提供を含めて具体的な取り組みを検討していこうと話しました。また、1回限りの連携ではなくて、部活の合同練習のような形で年間を通してやれる方が、1つの先輩をモデルとして捉えていくことが可能になってくるのではないかと話をしました。そこから、具体的な取り組みの報告は受けていませんが、両高校の校長先生を出席しておられますので、具体を詰めていく作業に入れたらと思います。

木村委員

1回目のオープンスクールは、パンフレットの中のチラシにもある通り来週(6/17)です。内容は、中学生が本校の授業を実際に受けてもらうものです。本校の特徴である探求科や数学、英語など一応中学生の希望を取って行います。もう一つの目玉はやっぱり部活動。これについては生徒が案内役をして行うものです。今現状で、中学生の参加者が全員で120名。安芸高田市内は95名の参加予定です。オープンスクールを6月に開催するのは初めてです。はっきり言って相当早いです。他校に比べて2か月くらい早いペースで計画しました。他の学校がやっていないところでしっかり見てもらいたいと思っています。逆に6月のこの時期がよかったのかどうか問題が出てくると思います。中学校の教員、或いは高校の行事もあります。本校でいうと明日明後日が文化祭なので、行事が非常に立て込んで、かなり準備する側に負担がかかるのは確かです。ですが、時期的なところで工夫しながら、かなり早い時期にやろうということで開催することとなりました。

中間委員

中学校との連携につきましては、部活動が中学生にとって高校選びの大きなポイントになると思います。4月に向原・甲田・白木の中学3年生にアンケートを実施しました。「現時点での向原高校を希望していますか」という問いにですが、3校全体で約100名弱でしたが6名しか本校を希望していなかった。希望しない生徒に対して、「本校がどういうふうになれば希望しますか」という問いに対して多かった意見としては、部活動が思いっきりできる・試合に単独で出場できるというような、いわゆる部活動の充実で結構な数が出ていました。その他、勉強、大学等への進学に向けた学力がきちんとつけてもらえる学校を選んでいるという意見もありましたが、部活動が大きなウエイトを占めるだろうというところで、部活動充実を考えないといけない。なかなか人数が少ない中で部活動の充実は難しいところがあり、他の県立高等学校との合同チームと練習したり試合に出場したりしています。今、卓球部とサッカー部が今年度向原中学校と活動したいということで桑田校長先生とも協議しており、実施していくこととしています。また、本校のメインの部活であるハンドボールですが、甲田小学校と月1程度で継続して交流し、甲田で立ち上がるハンドボールのクラブチームとの交流も行っています。

オープンスクールですが授業体験、部活動体験も取り入れながら計画をしております。8月2日と9月上旬に2回を行うよう予定しておりますが、保護者の理解がないとやはり受験っていうのは、学校選びは本人の意向が第1ですけれども、保護者の意向もかなり大きなものがありますので、生徒が部活動体験している間に、保護者からの質問を受けつけ、学校の魅力を発信する機会を

設けたいと考えております。

中高の連携では、本校が人権教育で指定校に指定されておりますので、外部から講師にきていただく機会が多数あります。地元の中学校或いは小学校を巻き込んだ合同での勉強会と同時に出前授業やマナー講座で中学校に出向いていきます。今月すでに向原高校に来られるようになっております。力を入れてやっていかないといけないと認識しております。

上水流委員長

高校と地域の間に入り繋ぐ人、取りまとめの立ち位置の人がいたほうがよいのではないかと思います。

高下委員

高校と中学校の先生方で、どんなことができるかという話し合う場が持てればいいのではないかと思います。また部活・授業・その他などテーマごとに検討する場を作ってみてはと思いました。

永井委員

今日1つ提案させていただきたいのですが、もし可能であれば私も途中参加で声をかけていただいたように、吉田中学校と向原中学校の校長にこの会議に出席いただいて、この場の雰囲気を共有できるのが大事なのではないかと思っております。

今、委員長からありましたつなぎ役として今年度から教育委員会に新たな職である教育参事職に市内中学校校長経験者が来てくれています。従いまして、校長での吉田中学校、向原中学校の勤務はないのですが、教諭での勤務はありますので、つなぎ役としてお願いしてみようと言ってもらえれば、教育参事の和田を中学校と高校の橋渡し役としてお願いすることができるかと思います。

上水流委員長

今、ご提案いただきましたが、参事の方にコーディネーターにさせていただくことについて、両校長先生方ご異論ないですか。

木村委員

具体的に例えば、高校の方からこんなこと、中学校と共にこういうことがしてみたいという意見があった場合、どこの中学校とできるか分からないというときの新たなつなぎ役になっていただければ相談がしやすい。

永井委員

私のイメージはですね、両高校長先生と吉田、向原中校長がこの会議とは別に、ここで挙げていただいています中高連携について、日程調整とかも含めて、参事職が担えば、4人の方ですから、空いた時間とかを調整しながら、意見交換をしていただく。それから、具体的な取り組みに持っていく協議を、まずは4人でしていただいて、この会議で報告といいますか。そういう形の方がいいのではないかなと思っておりますので、吉田向原以外の中学校へも声をかけてみようということになれば、参加を促していく、そういう流れに持っていったらどうかと思っておりました。

中間委員

中学校の先生が市外から来られている先生が増えており、市内の地元の子がよく分からないという先生が増えているとお聞きしておりますので、先生に対して高校をPRしていくというのは、一方では必要なと思っていて、教育参事の和田さんが高校と中学校の間に入って橋渡しをしていただけるというのは、非常にありがたい話だなと思ってお聞きさせていただきました。

永井委員

中学校の教員が両高校を訪問してみようかなとか逆があってもいいと思っています。まずは、4人の会というか中学校の校長を広げて具体に向け議論してこの会議で報告といいますか。校長経験者でもあり調整役として適任かなと思います。

上水流委員長

委員として加える点、事務局側として可能なかどうか、またこの委員が同意されればこういう形も良いのかなと思います。

事務局

要綱上は特に問題ないと思います。

上水流委員長

現在7月・8月は日程調整が終わっていますので、例えば校長先生の出席が難しければ教頭先生に代理で出席いただくとか様々な手立てはあるのかなと思っています。7月・8月の日程は変えないことを大前提にした上で、代理出席を含めてなんですけど、委員の皆様の方でご賛同いただけるならそういう形にしたいと思います。

(1) オープンスクールの充実の部分で、吉田高校は初めて6月に開催、向原高校は部活動や保護者に向けてもということが出てきました。オープンスクールを魅力的なものにすることは他にありませんでしょうか？生徒がこんなことやっていいのかなとか。

木村委員

吉田高校としては2回目があるので、ニーズを捉えてできることはやっていきたいと思っています。

高下委員

中学生がどういうのを見たいかという意見が新しくできる枠組みでとらえられればいいかなと思います。

木村委員

中学生アンケートを取っても、授業体験がどんなことをやっているのかと前の活動の2本立てになるのかなと思います。校舎は回ります。

中間委員

昨年度オープンスクールが終わった段階で、中学校の方から出前授業をしてほしいと非常に要望が多かった。高校の授業がどんなものなのかという、そういったことが知りたいというのが背景にあるんだと思います。また昨年度から、入試で自己表現というものが入りました。昨年度の今頃は自己表現が何者かというものがまだ学校や生徒には十分わからない。面接も含めてなんですけど、どういった立ち振る舞いをすればいいのか、マナー講座みたいに教室の出入りを含めて学校に来てもらってやってくれないかっていうような、中学校から要望が結構ありました。そういったものは極力答えてきましたが、結果には結びつきませんでした。

木村委員

吉田高校の出前授業は、6月から9月にかけて、吉田中学校で3回、八千代中で5回、高宮中で3回、美土里中2回の申込があります。どんな授業がよいか中学校からの要望に応えるよう授業をしています。学年は、1年生もあれば2年・3年もあり、或いは1学年ずつ3回というふうに機会はあります。

上水流委員長

県立広島大学では、最近高校生に主体的に参加してもらい、コンテストをやっています。県立広島大学に来そうな、また来てほしい学校に回って広島市内を中心に声をかけて行って、高校から応募があれば参加いただいています。主体的な関わりから学んでいけるよう、中学生自身が主体的にパフォーマンスできる場所を考えてみるのも手なのかなと思いますがいかがでしょうか。

本多委員

情報発信が非常に1つのツールとなっています。発信方法は、比較的公文書型にならないようにテレビのCM・イベントの広告において、字が多いと行く気がなくなる、見る気がなくなるということがあるので、分かりやすい状況で定期的にSNSの更新をして、情報共有を図り保護者の方にシェアしていただくような形をとれば、拡散率はかなり広がるのではないかと思います。今このご時世でSNSは1つのツールとなっていますので、計画を立て仕掛けを作った上で発信をうまくしてくのは非常に重要な部分かと思います。カウントダウン的なことを含めてできればまさに一体感がでると思います。

木村委員

今、吉田高校ではTwitterをやっていますが、Instagramをしようと考えております。写真部もありますので、どうやって広げていくのかという話をしております。吉田高校のPVを市の補助金で作成しました。YOUTUBEにアップしておりますが、実際どれくらいの保護者や生徒或いは中学生が見てくれるのか、また見ってもらうようにQRコードもありますが、見ってもらうためのノウハウは高校の教員にはなく分からない。

本多委員

広島県教育委員会のインスタグラム等のSNSにのせてもらうことや、各媒体を利用して拡散していくのも大事かなと思います。

木村委員

これまで県教育委員会におりましたので、中間校長もそうですけれども、報道提供資料ということで、マスコミ各社に文書の紙で出していた。今言われたら、県のSNSに出してほしいとオーダーはしていなかったと思います。

本多委員

各機関のSNSを活用しても問題ないと思います。戦略的に投稿していかないとスルーされてしまうと思います。

中間委員

拡散力でいえばTIKTOKかなと思います。広島県の知事も使いながら情報発信をしているので、活用したいと校内で協議をしたが、危険性を伴うとかそういうイメージが先行しているのだと思いますが、反対が多かったです。県にも、TIKTOKを活用していいか確認済み。今は、InstagramとHPだけで、生徒と先生が作成している。

中国新聞を見ている若い世代はいないと思っていましたが、入試の時結構な人数が見ていたのを聞いて、全く効果がないわけじゃないんだなと思いました。

佐田尾委員

ラインとかTwitterを使った発信もします。そういうところに乗っかるとか。そういうのを使う手はあるかと思っています。

上水流委員長

市外の人を呼び込むために、メディアを通じてやっていくことも重要なことだと思います。要望として、中国新聞が一番いいと思いますが、何か広告記事が作れないのでしょうか。両高校の楽しそうな広告を出せればと思います。こういう訴求力というのは、新聞はそれなりに力が強いなど、僕らも中国新聞と一緒にやることが多いので、私立大学も積極的に掲載して集めています。

要は中学生がアクターになるような感じで、何か変わるような活動があればいいなという、部活を見るだけではなく一緒に取材してみるとか、何かしら高校生と交わって活動するというようなものがあればと思います。正直中学生や高校生はTIKTOKを見ています。中間校長先生のアイデアは悪くないと思います。TIKTOK 自体をどう考えるかというのはちょっとありますが。

木村委員

教職員が作った動画はたぶんダメですね。実は、明日から文化祭で明日だけ非公開ですが、各クラスで動画を作ってコンテストします。どんな動画か私はまだ見てませんが、こちらはそういう動画を作るのが好きな子がいるので、なにか使えたらなあ今後の戦略として考えています。ただやはり、先生方は危険性や個人情報、顔を出して踊ったりなんかした時に悪い方の話をどうしても考えてしまいます。いじめの種になったり、誹謗中傷が発生しかねないので。どうしてもそういう考えが先走ってしまいますので、ちょっと限定するとかそういうことをしないとイケないと思います。

中間委員

動画作成自体を中学生にやってもらい、コンテストするとかオープンスクールとかもあるので、それこそいろんな形で動画作成してもらって、高校の宣伝に使いますとかそういう活動があってもいいのかなと思います。学校の名前を出すとなくなかあった時にさあどうしようとするのはどうしてもあります。

高下委員

そもそも中学生やその親世代が、進路を決めるときに見るサイトはどこになるのでしょうか。どこら辺で決めて、情報を集めているのでしょうか。

木村委員

吉田高校でググってみると、学校の評判が載っていて、ショックなのは校則が厳しいとありました。でも何年も前のことが検索した上位に載っているのです、何とかならないかと思っていますが、生徒にここを書き直してくれというわけにもいかない。

私たちでさえ、自分が吉田高校の校長と決まったとき最初にHPを見ます。まずはそこへ飛んでいくのだと思います。特に県外や県内市外だったりすると。

高下委員

吉田高校のオープンスクールで市外の方が結構いらっしゃるなと思いましたが、その人たちはどうやって知っているのでしょうか。

木村委員

これまで生徒が来ている学校には通知文というかお知らせを送っております。ちょっと広い範囲には送っています。今回120名集まっていますが、感覚としてはまだまだ、もっと集まってほしかったとは思っています。

本多委員

中国新聞の方で、記事にしてもらってですね、例えばオープンスクールがあるよとか、そういう記事にしてもらいたいと。

木村委員

それは必死に言っています。今日お配りしたパンフレットに新聞記事をいれさせていただきましたが、その記事は上に向原高校がどんと載っています。このサツマイモの取り組みは5月に1回高校生が小学校へ行ってサツマイモとか野菜クイズをしたりしています。メディアにもその時しかやりませんって言うてみたんですが、メディア側からしたら高校生が学校へ行くといってもなかなか写真の絵になりにくいところがあるのだと思います。次回農場に行って植えるのがあることを伝えましたら行きますということになりました。

上水流委員長

それはそれとして記事になっていただきたいのですが、やっぱりこういう本筋のところの学びの部分で、新聞に取り上げていただいて、こんな教育がある、アグリビジネス科があるってこと自体は、広島のこの近辺の中学生とか保護者がどのくらい知っているかですね。

高下委員

広告となると、今高校に対して出している補助金の中で検討していただくのが一番ありがたい。新たなところで市が負担となると少し難しいと思います。

木村委員

去年、吉田高校のPVを作りました。せっかくいただけるお金ということであれば、授業の中で使いたいもの、今後末永く使えるもしくは地域のために還元できるようなものがないかなと思います。

本多委員

資金調達に関する部分で、クラファンとか高校生にやってもらうとか、かなりハードルは高いですが考えてみてはどうですか。

木村委員

クラファンをやっている高校もありますけども、なかなかそこまで思い切れないというかそれにかかる労力がないというのが現実です。先生方は自分の専門の教科には強いですが、新しい分野についてさきほどのTIKTOKもそうですが、保守的なところというか、なかなか新しいことを確実にできるという自信がないと思います。可能性としてはすごいある時代ですが。

上水流委員長

そういうお金の稼ぎ方を考えていくこともやっていく必要もあるのかなと。クラファンを使って逆に高校をPRすることをやってみるとか、主体が高校だと問題であるならば生徒とか地域の方がそういう取り組みをすとか様々な取り組みができると思います。両高校に、市外からたくさん来ていただくことが大きな課題となっていると思います。

中間委員

昨年から、英語や異文化交流の部分でいろいろご提言、ご意見をいただきました。私も異文化交流を一つの特徴としていきたいと思っています。昨年度から実施しているものもありますが、幾らかこれからやっていきたいことを計画しております。安芸高田市国際交流協会と交流をさせていた

だくことで、今打ち合わせをしていますが、学期に1回ずつ多文化共生プロジェクトのところで生徒に異文化交流を経験させて学ばせたいという取り組みを1つ考えております。

続いて、本校がニュージーランドに姉妹校を持っており、オンラインにて生徒同士の交流、学習会、テーマを設定して協議というのを6月19日に1回目を設定しております。ただし、2年生の選択クラスで行っているので、学校全体で実施できるよう2回目3回目で広げていきたいと思っております。

向原町内で海外出身の方を多数受け入れて農業をしておられる方がいらっしゃいますので、その方と生徒との交流をこの2学期に行うように計画しております。

本校が行っている絵手紙教室を、昨年度からニュージーランドの高校と手紙でのやりとりを行っていますが、これは継続していきたいと思っておりますし、実際に留学生の受け入れをなんとか実施したいと思っております。また、国際交流協会から、台湾からの高校1年生の受け入れの話を知ったのですが、ホストファミリーになってくれる生徒がなかなかなくて、苦戦をしております。

地域と協働したプロジェクトの実施は本校の特徴として引き続き行っていきたいと思っております。なかなか他校の普通科と差別化のところ、必要だと思っておりますが、なかなか明確な差別化が書けないところがあります。

上水流委員長

特徴の所でご説明いただきましたが、ご意見あれば積極的にいただきたいのですが、今後いろいろな形で異文化交流につながるようにしていく、協定を結ぶとか。

中間委員

昨年度実施した英語塾みたいなところで、同窓会にお願いをして、同窓会の方が英会話教室みたいなものやっていたくことになりました。まだ、明確にいつやるかというのは決まっていませんが。

高下委員

後は、方向性を特徴として伝え、どう伝えられるかということだと思っております。広報誌の取材でシンセイアートが聞いて記事を出してもらっている感じでしょうか。

中間委員

学校に来ていただいて、記事にさせていただいております。

高下委員

異文化交流等特徴としてやっているというのが、進路を決めていく前に何回かシリーズものみたいで使えたらいいのかなと思えました。高校の方である程度記事を作られてそれを出しておられるのだったら、記事作成は大変だと思いますが、シンセイアートが書いていただけるのであればイメージをうまく伝えることでやっていただけたと思います。

上水流委員長

中身や特徴が伝わるような視点で取材いただければと思います。

木村委員

行事ごとに記事に出していただけるということで、私たちに負担なくPRしていただけるので非常にありがたいと思っております。市の広報誌に掲載いただいておりますので、市民の方にも学校がこういうことをやっているんだなと知っていただく機会として非常に大きいと思っております。ただ、生徒の募集に繋がるかどうかと思います。中学生はあまり広報誌を見ていないだろうし、保護者層向

けかなと。

中間委員

方向性として、目の前の生徒の力の育成のところメインになってくるので、中学3年生に効果を与えるような活動にできないかと考えています。なかなかそこが難しい。やっていることが魅力として外から見えない、映らない。あれがあるから向原に行ってみようというところになかなか結び付かないというのが現実的なところですね。

上水流委員長

例えば、中学生に来ていただいて、その中で特徴的な試みとか授業をお見せするのが一番早い話だと思います。今それがちょっとできていないと思いますので、今年度のどこかで例えば中学生がそれぞれの高校に行って、一番面白いような授業を見てもらい、どう中学生に伝えていくかだと思いました。紙面に関して、もちろん今の子供の学びを伸ばすことが一番重要だと思うので、向原高校に関していうと「変わる向原高校」でこう変わります、では変わるものはなんですかみたいな形でそれが伝わると保護者の方が向原高校に興味を持ってもらえると思います。保護者が、チャンスがあれば行ってみたいんじゃないかと思うと、そこにかける中身がどんなものかということをしつづつやっていただく、グローバル化するっていう大きな話ですけど、そのくらいの風呂敷を広げて、なにか夢を語るというかその言葉を感じながらなにかできないかとか思ったりしました。

中間委員

去年その話をいただいて、今年のパフレットにそれをキャッチフレーズに変わる向原高校といれてみようかなと検討しました。ただ、結局何が変わるのかというところがあるので一旦断念して向かう原点と、もう1回自分を見つめ直して頑張るかみたいなのをちょっとアピールする方向に今年度はさせていただいたんですが、確かに変わる中身をきちんと固めてポンとキャッチフレーズとして出したいなと思っています。

上水流委員長

今多くの大学で出前講座をやっていると思います。多分無料でいくと思いますが、例えば各国のことを研究している教員がいて毎月1回12回シリーズで世界史のような授業を組み立ててできるとかこういうこともできるのではないかと思います。大学側に中学3年生も来ているぐらいの気持ちで中身はしてくださいって言って、近所の人に来てくれたらという形にして、毎月向原高校でもどこでもいいですが、世界を回れるような話をしている人を探してみるというか、向原高校に何か異文化交流に関わるような要素が毎月何かあるような雰囲気になってくるとそのイメージが着きやすいのかなと思います。

高下委員

公開講座とかよく大学ではありますが、安芸高田市では高校が一番上の学校ですから高校でそれはできたらどうかと思います。

上水流委員長

学校の安全を確保した上でやってもいいかもしれません。月1回ずついろんな国の方に来てもらって、その国のことを知ってもらうのも面白いかなと。あと、農業を専門にしている教員もいるので、スマート農業とか、農業の状況とか1年間の中で吉田高校に教えてもらうとかありますよね。

木村委員

ほぼ探求科というような、この名前はいろいろ物議を醸しますが、総合型ですので、時間的な余裕があるわけではないですがそういうそのフレキシブルに使える授業枠が、よくありますの

で、そういうところへ取り入れてというのはできるかもしれないですね。

水流委員長

今、廿日市高校からたくさんリクエストが来ているので、教員も行っています。校長の方針なのかわかりませんが、時期はバラバラです。

5番目に市外からの生徒の確保というところで、これ自体は今までの議論に関わってくるころだと思いますが、情報発信で変わる向原高校であれ、いずれにしても取り組みというか高校が持っているアグレティブなものを外に知ってもらってことだと思います。その辺ができないといけないので、私たちも新聞広告を入れましたけど、どういう風にアプローチを広げていくかというところなのかなと思ったことはあります。

木村委員

通学的手段ですが、向原高校は芸備線があります。吉田高校の場合は、市内からでもバスがありますが、昨年度から議論しています。

中間委員

向原高校の場合、市外からはもう芸備線でしか通えないです。なので、下宿を同窓会にお願いをして、何とか目途が経ちましたので昨年度募集して、呉の方まで行きましたが結果的に入学者はいませんでした。交通の整備とか議論が進んでいるのかもしれない。

事務局

昨年度、交通の計画を作りましたので、今年度からその部分を変更するための利便増進計画を作ります。その中でこういった議論をしていきたいと思っております。

木村委員

実際の通学の時間帯の朝とか夕方の方所ですよ。

事務局

54号線のところは、市の管轄ではないので、ピンポイントでの要望は難しいと思います。

高下委員

市内では、もう少し各地域の拠点と芸備線とかを結ぶとか、吉田の中心部を結ぶとか、北の関宿と吉田を結ぶ、そこから高宮と美土里は通勤時間帯など限定的になるかもしれませんが、どのくらいの定時路線、決まった時間帯で時刻表に基づいた形を計画にしていきたいと思っています。ただどのくらいの頻度でそれが実現できそうかっていうのが次の計画のところ具体的に検討していこうとしています。再来年は難しいですが、なんとか新しい形に持っていけないかなと思っています。

上水流委員長

もうちょっと時間がかかりますね。そこら辺はちょっと難しい課題だなと思いますが。そういう交通網も下宿等も情報のアウトリーチのところですね。広島県の教育委員会で高校の紹介をしていないですかね。80校を紹介する紙面とか。

中間委員

大学は紙面でやりますよね。

上水流委員長

ここに書かれている中長期的なものは議題にせず、次回中長期的な取り組みについて、この時点でこういうことをやっていくことのご理解をいただければと思います。例えばスタディサプリの導入はすでに予算化されていますし、(2) 高校生自身が高校の魅力化を検討についてもそういうようなことを取り組んでいるようなことを高校側でもご理解いただければと思いますし、学びのサポートは連携できる形をきちっととれる体制を作っていくことだと思います。

木村委員

スタディサプリアについて、職員が心配しているのがこれが継続的なものでないと、1年限りのものだと終わってしまうので、やっぱり3年間で1年生から3年生になるまである程度ちょっとその期間を、大変補助いただける側が言うことでないかもしれませんが、ぜひともお願いしたいと思っております。生徒のことを考えたら1年だけっていうのは、残念がると思います。よろしくお願いします。

高下委員

これは、ある程度続けてこそ意味があると思っていますので、そうなるようにしていきたいと思っております。

上水流委員長

続いて高校生アンケートの実施ということで、この点について事務局から説明をお願いします。

事務局

資料3・4説明させていただきます。この会議の中で昨年実施をしましたアンケートの内容のものを今年度も吉田高校と向原高校の生徒にお願いできたらと思います。同じアンケートを毎年この時期にさせてもらって、アンケート結果に変化が見えるかどうかというあたりを図っていったらと思います。資料3にアンケートの項目を挙げております。なるべく短時間でアンケートに答えてもらえるようにということで、昨年この会議で設問についてかなり議論いただきました。それぞれ性別から住んでいる地域・所属している学校・学年・高校卒業後の進路希望など基本事項に、高校に関することとして、高校に期待していること・高校を選んだ理由・選ぶときに参考にした情報・高校を妹や弟にすすめたいか・現在の学校生活で街頭するもの・大人になって実現したい夢・これから学びたいこと、関心があること・高校をよりよくするために改善してほしいこと、地域社会との関わりというようなことを挙げさせてもらっています。

資料4にあります、Google フォームを活用してインターネットによるアンケート調査で行えたらと思います。こちらまだ昨年のQRを使用しておりますので、読み取っていただくと昨年のフォームにつながります。いつぐらいまでにやっていただくか今日この場で議論をいただけたらとおもいますが、また次回の会議までに集計・報告をさせていただければと思っております。今月末試験とかもあられるかもしれないなど思いつつ、生徒の皆さんにアンケートを実施し、回答していただけたらと思います。6月末くらいまでに回答していただく時間を設けることができるものかどうかというのも校長先生に伺いたいと思って提案させていただいたところです。

上水流委員長

中身については、提言的についてどう変わったのかを見ていきたいと思っておりますので、基本的に変えない方向でと思っています。

あとは、アンケートを、そういう時期ですがいかがでしょうか。6月末までに回答いただけますでしょうか。

中間委員

今年の2・3年生は去年回答していますので、同じことをまた聞くようになります。学校としての経年変化は見られると思いますが、学年での経年変化は見られないと思います。例えば1年生だけに絞ったり、ということが駄目ですかね。毎年1年生の意識が変わっているとか、丁寧な変化、もちろん2・3年生にやっちはいいですが、同じことを答えているので、選んだ時の話とか多分忘れていくかもしれませんよね、自分が何を回答したとか。

事務局

同じ質問の繰り返しになってしまいますが、まったく同じ回答になることはないと思っています。高校1年生の数カ月から1年間生活をしてみて、少し変わったところが出てくるとものかどうか1回は図らせてもらいたいと思っています。

上水流委員長

今ご指摘の通り、例えば「入学した理由は何ですか」という問いは、確かにもう1回聞いてどうなるのかというのはその通りだと思います。一方で、例えば「勧めたいと思うか」には、もしかしたら学校生活で変わってくる可能性もありますし、「学校生活で該当するものは何ですか」もまた変わってくるかもしれませんので、大体1回取らしていただいて、全部取ることの意味があるのかどうか検証も含めて理解させていただければと思います。

それぞれの高校から地域との連携の現状について、5分程度ずつお話をいただけたらと思います。

木村委員

吉田高校についてですが、前任の久保校長先生もかなり熱心にいろんな地域との連携について仕掛けておられて、これまでも様々なところで市・地域の方にお世話になっております。先日も、サンフレッチェ広島の安芸高田市DAYで応援に行かせていただき、スタディサプリのところでいろんな支援をいただいていることに感謝しております。

今後は、やろうとしていることとして、道の駅との連携です。吉田高校のPVを道の駅で流していただいておりますが、今実現したいと考えておるのが吉田高校を会場としたマルシェで、農業で収穫したものの販売、道の駅で販売されているものを扱うというのも試してみたいと思います。この企画は本校の生徒が企画をして、道の駅で地域活性化策を幾らか考え、投票で決まった話を進めておるところです。なかなか自信がないので小規模のところから始めていきたいと思っております。秋以降の開催の予定です。

また毛利元就入城500年の市の企画で、生徒からフォトコンテストをさせてほしいとありました。Instagramを利用して、一般の方或いは中学生を含めて投稿してもらって、素晴らしい作品がでてきたらと思っております。

実現できるかどうかわかりませんが、農業の作物を給食の食材として出さしていただきたいと考えております。2年前に呉特別支援学校にいた時に、オリーブを栽培し給食に使ってもらっていました。給食ということで市内の全小中学生にも行き、敷くマットに生徒のデザインのものを使わせてもらっていました。安芸高田市の仕組みはまたこれからいろいろと教えていただかないといけません。小中学生のまさにダイレクトに目に触れる何かができたらと思っております。関係各所に相談したいと思っております。

昨年吉田高校から10名ほど国立大学に出すことができました。中学生の先生に見ていただいたところ「あの子がここまで行ったんですか」と言っておられました。出口のところでも伸ばしているというところもアピールしていきたいと思っております。また部活動のところも見たいと思います。うちの規模の学校としては、かなりの部活動の数がありますし、また神楽をはじめ活躍する部活もありますので、アピールしたいと思っております。

中間委員

昨年校長に着任して私が意識して取り組んできたのは、地域の方と協働して生徒の資質能力を育成するところをやってきました。もちろん学校内の授業はやりますが、課題を発見・解決する、或いは主体的に学ぶとか生涯にわたって学ぼうとする意欲とかそういった部分は教室だけでなく地域の方と関わる中で、身に着けさせたいなと思い、3つのプロジェクトを立ち上げました。

1つは地域の企業と連携をして、地域課題の解決を図るプロジェクトです。2つ目はくず米として捨てられる米粉を活用した商品化のプロジェクト、3つ目はSDGsを踏まえたガーデニングの取り組みで、今年度は世界の農業を知るということで座学を含めながら、福岡さんに協力いただいています。今年度もこの3つを1つの目玉として取り組んでいきたいと思っています。

もう一方で中学校から期待されている確かな学力の定着、進学実績の向上です。高校として当然のことだと思いますので、授業等できちんと頑張っていますが、同窓会の力を借りて公営塾や英会話教室をやりたいということで会長と話をしております。

最後に昨年から話をしておりますが、異文化交流のところですか。地域と協働する活動と異文化交流、そういったものをメインとして進めていきたいと思っています。

本多委員

無印良品さんは確かマルシェやられていますし、農家さんと協同して、今回は道の駅のほうでもそういった形で地域における農業との関わりあたりを考えられているようなので、そういったところにお声かけして、無印良品さんと新しい展開ができて、安芸高田市もPRの場として活用したりすることで相乗効果もあると思います。その中でやっぱり両高校の紹介とかがあればいろんな方々の目に触れる環境として1つあるかなと聞いていて思いました。

上水流委員長

昨年始まった時と比べて非常に両高校さんでいろんな取り組みをされようとしているなど正直実感しております。それが少しずつ形になって広がっていけばいいなと思いながら聞きました。今日の議論の中で高下委員が仰っていましたが、安芸高田市内の中で考えると2つの高校がいわゆる最高学部になるということに改めて気づきました。単に高校生が学ぶ場だけでなく、地域の在り方とかそういうのも含めてリードしていくのが高校としての役割、地域に根付くという意味で大事なかなと思います。もちろん地域の方から教えてもらうこともあると思いますが、高校の先生も含めてその知恵をいろんな方に還元している存在になればと思いました。

今日も短期的なものについては、様々な意見をいただいて実際に形にできるものも出てきており、7・8月でどう行われたかを確認していくことになるかと思っています。関係者の皆様には非常にお忙しいと思いますが、実現させていけたらと思います。

事務局

いろいろと熱心にご協議いただきまして、ありがとうございます。本日いただきました、皆様方の意見を踏まえまして、次回の会議の方にですね反映をさせていただきたいというふうに思っております。

次回の会議は、7月5日ということでお知らせをしております。以上で本日の会議を終了します。どうもありがとうございました。